第4回青梅市総合長期計画審議会会議録（概要版）

- 1 日時 平成24年1月25日（水）午後2時～4時
- 2 場所 青梅市役所 2階204・205・206会議室
- 3 出席委員
篠原委員、館委員、米村委員、杉村委員、和田委員、安間委員、志村委員、
稲葉委員、岩田委員、村野委員、林委員
- 4 議事
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 説明事項
 - ① 基本構想骨子（案）について
 - (3) 委員意見交換
 - (4) その他
 - ① 次回の開催等について
 - ② その他

（配布資料）

- 資料1 第3回審議会意見等の分野別整理
- 資料2 基本構想骨格の比較
- 資料3 基本構想骨子（案）の体系
- 資料4 基本構想骨子（案）の検討
- 資料5 東京都多摩地区の昼夜間人口比率の推移
- 資料6 青梅市内観光施設別観光入込数の推移
- 資料7 「道路延長の推移」（前回資料6「青梅市総合長期計画策定のための基礎調査報告書～60年の歩み」の一部）

審 議 会 等 会 議 録 (概 要 版)

発 言 者	会 議 の て ん 末 ・ 概 要
企画部長	<p>ただいまより第3回青梅市総合長期計画審議会を始めます。 (連絡事項) (資料の説明)</p>
会長	<p>本日は基本構想骨子のたたき台を説明し、これをもとに審議いたします。</p>
事務局	<p>事務局資料説明</p>
会長	<p>30分ほどで説明していただいたので、時間は1時間半ぐらいできるということですので、よろしくお願いたします。恐らく、事務局の希望としては、一番わかりやすいのは、資料3のA3の横に並べたまちづくりの基本方向の1の生活から10の行財政運営までを10の方向として定義して、それを柱に、右に書いてあるような施策を展開していきたいという考えだと思います。まず、10の施策、基本方向がこういう柱でいいのかどうかという話と、その中身としてどういうものがあるかということで、進めたいと思います。1の生活から10の行財政運営まで、自由に発言していただければと思います。</p>
委員	<p>私は、この議論の仕方にちょっと疑問があります。もうちょっと煮詰まった上でやるべきだろうと思います。今まで総合長期計画というのは何になるのか。これはやはり10年スパンで考えて、社会が大きく変わる、構造的に変わる。これに対して対応する計画であるという認識が必要だろうと思いますし、そのような議論をしたと思います。青梅市が、農山村の村から、あるいは材木の村から、東部地区が、工業がこうなった。10年スパンの構造的な改革と、さらに、これからどういう時代認識になって、今後の10年がどうなるのかという議論をしなければならないと思います。</p> <p>経済界、あるいは、日本では、失われた20年と言われていました。株価はガタガタに下がりました。地価も下がっています。それで、第5次をつくったまでの失われた20年というのは、まだ行政面では影響がなかった。要するに、バブルが崩壊したのは、これをつくった2000年までの状態で、それからこの10年は、本当の経済が空洞化して、中国あるいはインドが台頭して、生産基地が移っただけではなくて、知的なところまで移りつつあるという時代です。また、進んでいる高齢化の時代です。これがさらに加速して、本当に行政に影響を与える、あるいは、市民生活に根本的な影響を与えるのは、これからの10年だろうと。青梅もそれを逃れることはできない。今までは、根源的な影響を与えないで済んでいたわけです。国が借金をすれば済んでいたわけです。これが、そうはいかなくなる。では、その10年を見越してどう考えるべきか。</p>

<p>会長</p>	<p>あと一方では、この計画を見ると、入りを量って出ざるを制すると言いますが、これは出ることばかりで、入りのほうはどうかということ、その議論はなくて、希望的に10項目の個別計画にあげるような長期計画は根本的に違ふと私は思います。</p> <p>例えば、国は、要するに厚化粧をして、借金を増やして国債でどうか生活を保っていたのがこの10年です。では、青梅市はどうか。やはり青梅市も厚化粧をして、今まで保っていたのがこの時代だろう。青梅市で言えば、競艇は別として、固定資産税、市民税、あるいは法人税は、これがガタガタになる10年だろうと思います。市の固有の税金といえば、固定資産税と市民税だと思います。国からはもう期待できない。消費税が20%に上がっても期待できない。では、固定資産税、これから市街区計画は増えないと思います。三ツ原の工業地帯は空き地ばかりになって工場は売りに出る。青梅市の駅前も、地価が下がっても、昔は地価と課税標準額はすごく乖離していましたから、固定資産税は減らなかった。しかし、固定資産税は今の時代に取りれますか。地価はこれから本当に下がってくる。今までは下がってきたけれども、課税の標準額を下げないで済んでいた。</p> <p>考えるのは10年計画です。こういうときに考えるのは、産業の活性化、あるいは働く人、要するに税金を働いて納められる人を増やす政策を考えるぐらいではないと、絵に描いたもちになると思います。</p> <p>私が考えてきたことは、やはり働く人を増やす、若い人を増やす、地方の時代と言われています、時代認識として。地方の時代というのは、地方生き残りの時代だろうと思います。そうすると、地方の活性化に成功したところが残って、人が集まり、あとはすたれてきます。そういうことを考えると、若い人がどれだけ住んでいるか。働く人、若い夫婦だったら婦人だって労働力になる。そして、担税能力のある人をいかに増やすか。</p> <p>もう1つは、産業をいかに活性化するか。要するに、お父さんが失業では困るわけで、産業を活性化することによって地価も上がる。それでようやく税金もできる。そして初めて生活ができるだろう。今までは、国が、あるいは都が面倒を見てくれましたけれども、高度成長時代になると、青梅は、昔からずっと見て自立都市青梅というのをテーマにすればいいのではないかと思った次第であります。この計画に対する、個別政策については、いろいろと案もないわけではないですが、計画の根本、10年先を考えて、もう少し根本的な計画を考えたほうがいいと考えております。</p> <p>そういう話が出たので、市の当局のほうにも説明してもらいたいの、2つ大きな問題があって、1つは、どんどん国債を発行して、何とかごまかしてきたというか、それでやってきたのがそういう結果になりつつある。それは確かだと思います。それに関連して、12ページの差しかえの裏のところに、「一般会計歳入額の推移」が書いてあって、国は副会長が言ったとおり、10年、20年と惨たんたるものですが、市の歳入、歳出のバランスはどうなってきたのか紹介していただきたい。</p> <p>それから2番目は、副会長が言うのもわかるけど、考えてみれば国の課題で、青梅市だけで解決できるのはなかなか難しい問題だと</p>
-----------	--

委員	<p>思います、雇用の問題とか産業の問題は。</p> <p>ただ、この時代で生き残るためには、見つけないといけません。</p>
会長	<p>それはそうです。だから、地方分権で市町村に権限を移譲しようとしているけど、その傾向の中で、1つの市町村がどのぐらい自由にやれるかということです。御説明いただいてから、できますか。</p>
副市長	<p>来年度の予算編成をしております、非常に厳しい状況でございます。今までは、税収が大体230億程度ありましたが、今年度、来年度は200億を切るという非常に厳しい状況でございます。これを埋めるのは、今までは国が、基本的に足りない場合には地方交付税で、税のマイナス均衡ということで配分があったわけですが、国がなかなかそれを出せませんので、基本的には臨時財政対策債とか、要するに国のかわりに借金をした。実際には、赤字歳入があればその場で発行して、今まで何とかきました。これも限界に来ていまして、実は、この長期計画をつくるうえで、財政計画を見直しておりますけれども、今おっしゃったようなところが非常に厳しいところでございます。ただ、これを自立都市ということで、完全に国、都から独立することは、現実にはなかなか難しい。もちろん、重点施策として置かなければいけないとは認識しております。長期計画は、ある程度、将来的な余裕というものがありますので、それも考えながらやっていきたい。</p> <p>今、委員さんがおっしゃった、今後どうなるかということは、極めて国の今後の流れは厳しいですが、消費税を十何%に上げなければ追いつかないというようなお話がございました。そんな中で、それを我々が議論してもなかなか難しいものでございますが、東部地区の空いているところは、いわゆる産業振興が必要になります。それから御指摘のとおり、26市の中でも、市民税の所得は極めて下位でございますので、この所得が上がることにより、住民税が上がる。これをどうするかは非常に重要な課題と考えておまして、今回は提案できませんが、今後十分に我々も考えていかなければならないと認識しております。</p>
会長	<p>意見がまだあると思いますが、今の話は市の直接の税収は230から200億ぐらいになりそうですか。</p>
副市長	<p>今までとおり230億ぐらいあれば、来年度の場合は学校の耐震化や冷房化といった特殊支出もございしますが、いわゆるハードではなくてソフトの部分でも、それを賄うには230億は必要と思います。ただ、230億なければ、歳入を増やすということはなかなか難しいことでございますので、何とか行政改革というようなかたちで経費を下げると。先ほどおっしゃったように、入りを量り、出づるを制するというような基本的な考えでやらざるを得ないと思っております。基本的には、230億はぜひ欲しいと考えております。</p>
会長	<p>もう少しおっしゃりたいことがあると思いますが、手を上げている方がいるのでどうぞ。</p>

委員	<p>私も基本的にその考え方に賛成でございますが、国はここ10年間、選択と集中という表現を使っておりますが、手を上げて頑張る市町村には応援しますが、手を上げず、やる気がないところは一切応援しませんというのが国の方針です。来年度にあたって、予算規模の大きい国土交通省の方針などを見ましても、勝手に道路を使っていいから、自分たちで収入を上げなさい、河川敷を勝手に使っていいから、そこから自分たちで収入を上げなさいと、方針が変わってきているので、やはりそこは、きちんと行政的にも受けとめていただいて、活用できるものは活用して、市の財源にしていくべきだろうと思います。</p> <p>あとは、1人はみんなのために、みんなは1人のためにというのが、やはり世の中が動いていく大前提だと思います。ギリシャも夕張も人ごとではないということを、市の職員を含めて全員が計画を立てる段階できちんとおなかの中に入れておかないと、この10年は今までの10年とは全く違うはずですよ。ここは青梅市全員で、きちんと長計をつくっていきたいと思います。</p> <p>それと、少し補足説明です。さっきの観光客の入人数ですが、働いている方に聞いたお話なので、市役所で調べられたら調べていただきたいのですが、かんぼの宿が駒木町にあります。全国のかんぼの宿の中でも、入り客数がナンバーツーとかナンバースリーのレベルだそうです。それで、大体1日平均で、100人ぐらいの宿泊客がいるそうです。マックスで180から200人。そうしますと、宿泊者が、年間で36,000から40,000人ぐらいです。あとは、日帰りの宴会、入浴の方が1日に100人ぐらいいらっしゃるそうです。要因を聞きましたところ、月、火、水、木と4日間ぐらい連泊する方が多いそうです。都心の、お金があって一人暮らしの方が、家に一人でいても寂しいからということで、平日一人で泊る。週末は、申しわけないから帰るという状況。随分多くの方が入っていらっしゃるようなので、青梅の中の産業として取り込めないかということですよ。そんなことも少し考えてみたらどうですか。</p> <p>もちろん固定資産税を上げるのは1番です。商業の活性化、工業の活性化によって居住人数を増やして、土地の価格が下がるのをとめる、固定資産税をしっかりと確保する。そう言った個人の税金をしっかりと取ってくることがまず大事だと思います。</p>
会長	<p>前に市長に言われて見に来て、全然知らなかったけど山車が出る青梅祭り。入れておいてください。青梅大祭を見ますと、あれはPR不足だね。</p> <p>僕はあんなに立派だと思わなかった。ただの普通のお祭りだと思っていました。</p>
委員	<p>3月の初めに「アド街」でまた扱ってくれますが、来年、青梅大祭前に放映してもらえるように、アド街の制作会社にプッシュかけていますので、楽しみに待っていてください。</p>
会長	<p>それと、これを見ると、平成22年度は何でこんなに落ちているのですか。</p>
事務局	<p>震災の影響です。</p>

会長	<p>それにしても、定住人口を増やすのももちろんありますけど、もともと人口が減っているわけだから、やはりいろんな人に来てもらってまちを活性化する観点から言うと、観光客がみんな減っている。やはり、青梅の観光施策としてはまずい、どうですか。</p>
事務局	<p>今、御指摘のとおり、このデータでいきますと、西部の御岳エリア、あるいは梅郷エリアの観光施設が、軒並み22年度は下がってきています。これは大震災の関係もありますが、総じて、減少傾向にあるものが多い。一方で例えば、御岳の御岳登山鉄道につきましては、いろいろと観光のPR等も功を奏し、あとはメディアでも露出があって、23年度の夏の時期につきましては、対前年で30%程度のアップがありました。そこはやはり、その地域あるいは策としてのPRを含めた努力の結果というところもあるので、観光を産業にとらえた施策として努力すべき部分と言うふうに考えています。</p>
会長	<p>随分前に、僕は土木だったので、北九州でインフラの博物館をつくる構想があって、3、4年通っていて、外国にもいろいろ見に行きました。それは博物館ですけど美術館もそうで、美術館の館長は、今や絵の先生ではなくて、完全な営業マンだそうです。つまり、いかに美術館を赤字にしないで、人を呼んで来て、いろんな企画をやって。</p> <p>そういう観点から言うと、2ページ目の青梅市立美術館は少し増えているけど、あとの博物館とか美術館とか、特に玉堂美術館なんて、まことにいい絵を持っているけど、すごい落ち方です。このあたり、考える必要がある。デザインとか美術というのは、それなりに社会が成熟してきたら、みんなが非常に魅力を感じるものなので、本当は伸びなければいけない。京都ではないですが、金沢美術館を成功させた人と話したことがあるけど、自分の美術館には1年のうちほとんどいない。そうやらないと成功しない。</p>
委員	<p>青梅を観光地としてという話がよくあるけれども、この中で経済効果って一体どのように見ているものか非常に興味があるところです。経済効果のないものを一生懸命やってもしょうがないし、例えば、梅郷柚木エリアは、2、3年前でしたけれども、そのときに市の職員の方から、毎年、2千万円ぐらいの経済効果があると聞きました。どのような判断なのか。梅郷の場合には有料ですから、入場料を幾らと見たものか、あるいは、地域に聞けば、当然いい評価をするでしょうし、よくわからない。何かそのような数字で示していただくと、人数で多いと言っても金を使わないところもありますし、そのような配慮が行われないものでしょうか。それがないと、これから観光を伸ばそうといっても、一体それがどのような思いに寄与するものかよくわからない。</p>
会長	<p>よろしいですか。今日でなくていいですが。ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>皆さんが今まで議論してきた大半が施設づくりの話ではなくて、仕組みづくりのお話をされていたと思います。そこで気になるの</p>

	<p>は、資料3の第6次青梅市総合長期計画という枠の中で、基本理念、将来像と書いた次が、まちづくりの視点、まちづくりの基本方向と書いてありますが、まちづくりというどうしても、ここに道路をつくるとか、施設をつくるというようなイメージで見えてしまう。まちづくりではなくて、まちのあり方の視点だとか、まちのあり方の基本方向というような、言葉使いが違うのではないのでしょうか。まちのあり方であれば、何かこういう仕組みでこういう施設を使いたい。お年寄りも集まりたい、子供と親も集まりたいといったときに、今までの施設で、その施設が活用できるのであれば、切りかえてもらえばいい。</p> <p>今まで委員の方々から提案されているのは、あれもこれもつくってくださいというお話よりも、こういう仕組みで、みんなで集まってやっていきましょうとか、そういうお話がいっぱいあったと思います。そういうことで、ここのまちづくりという言葉に違和感を覚えたということを申し上げておきたいと思います。</p> <p>まちづくりと、普通に使っているのも、当然システムの話も入っていると理解していたので違和感はなかったけれども、普通の人からすると、つくりと入っていますから、やはりハードが中心になるだろうと誤解する人もいるかもしれない。将来の都市の視点とか、将来の都市の姿とか、そういうほうが本当はいいと思います。今日決めなくていいですから、ソフトとハードがバランスよく、特に、だんだん財政が厳しくなってくると、今あるものをうまく再活用して使うのが非常に大切な視点になります。今までの高度成長時代は、8：2ぐらいがハードで、だんだん拮抗してきたと思いますが、まだ意識はハードのほうに負けるという話なので、そろそろソフトのほうに6割、7割を占めるという社会に切りかえなければと思います。景気が悪くなるということは別に意味しないわけで、ものが動けばいいわけですから、考えてみてください。</p>
会長	<p>私も、時代認識という意味では、まさにそういう認識を持たなければいけないと思っていました。ただ、会長もおっしゃったように、それが果たして国を含めて、あるいは国際的な面も含めて、どこまで市のレベルで掘り下げて分析し、そして10年後を見通せるかとなると、かなり厳しいので、やはり国レベルのさまざまな計画を見ながら、市としてはある程度、危機意識が盛り込まれるようなかたちで表現していくことしかないと思います。あまりそれを極端に推し進めると、総合計画自体がつかれるのかという話になってしまいます。</p> <p>もともと、市の皆さんが専門ですから御存じだと思いますが、市町村の場合には、法定計画として、基本的な総合計画を立てなければいけないとなっていますので、どういう時代状況であれ、やはりきちっとつくっていく。限られた情報の中で、10年後をある程度見ながら、市としては、こういうふうなまちにしていくという方向性を市民に伝えていく。そういう役割も、この計画の中にはあると思いますので、むしろ時代認識とか、それを受けた市のこれからの課題をどう克服していくのかというところで、総合計画だからしょうがないとは思いますが、膨大過ぎる。市民が、これを手にとって見ることはまずないだろう、この冊子で、厚いもので。理解もし</p>
委員	

<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>にくいというのが1点あります。</p> <p>それから、総合計画とすると、どうしても網羅的、一般的にならざるを得ない。これも、策定されている当該の課長さんが御苦労されていると思いますが、非常に網羅的で一般的になってしまう。それぞれのセクションの人にとってみれば、計画に載っているか、載っていないかというのが非常に大事になりますので、計画にも載せてもらえなかったということになると、予算が使えないので、やはり計画の中に位置づけられている。そういうことを考えると、膨大になってしまう。</p> <p>これは個人的な意見ですが、長期構想、長期計画は、ややコンパクトなものにして、重点的に何をするのかに少し視点を置いてつくる。以前、計画の検証資料を見せていただいて、それをもとに幾つかの分野についてインターネットで調べたけれども、青梅市はかなり各分野別に、個別の計画を中期、長期とつくって、なかなか中身もしっかりした立派な計画が立てられている。そういうものが土台になって、この長期計画に盛り込まれ、計画ができていると思いました。むしろ、個々の事業については、個別計画にゆだねて、それに基づいて事業別で行っていく。長期計画の中では、その中の基本的な部分、市長がどうしてもこういうふうに進める、市としてもこうやっていくという部分を、ある程度まとめて計画の中で整理していくやり方もあるのではないかと考えています。</p> <p>そういう観点で、今日の資料2についてお話ししますと、委員の皆さんが言ったようなところを、もう少し具体的な計画、危機意識をきちんと、まちの将来が、このまま行っても明るくならない可能性があるということも含めて、現状をとらえて書くということが必要だと思います。それから、市の特性とまちづくりの課題と市民の期待というのがありますが、市の特性で説明の資料を読みますと、いいところだけ書いてあります。やはり、特性の部分では、市が持っているいい部分と同時に、克服しなければいけないところも触れる必要があると思います。</p> <p>外の人間から見ると、真ん中に多摩川があって、南北も分断されていて、それぞれが丘陵地帯である。それから、東西で見れば、東青梅から東のほうが平野、平たんな地形で、工場なり商工業が進出しやすい。そして、青梅から西に行くと、一転して丘陵地帯という、こういう地理的な状況も含めて、いろいろな制約条件を持っていると思います。そういうものもやはり書き込みながら、その中でどういう課題があって、今回の計画の中でそれをどうしていくのかという、そういうかたちで、書いてほしいと思っています。</p> <p>あと、10項目については、わかりやすさという意味では、このぐらいの柱はいいと感じております。</p> <p>先ほど冒頭に言ったのは、長期構想で言うと、5の時代潮流と大震災が残した教訓のところ、今後予測される10年ぐらいについての分析はできると思います。人口が減りますし、税収も減って、しかし、それをどう克服するかが1つの市町村レベルではなかなか難しいと思います。くくりとか都のバックアップの話もありますから。</p> <p>でも、それを克服するのは、長期計画のあり方じゃないですか。</p>
---------------------	---

<p>会長</p>	<p>もちろんそうです。 この10年、20年の不景気でも、新しい産業を興して元気なところもあるわけです。四国の馬路村とかいろいろなところがあって。青梅クラスの10万、20万都市で、どういうところがあるか知りませんが、調べればあるはずですが。ただ、それがなかなか難しいのは、行政が頑張ったからではなくて、民間です。どっちかっていうと。</p>
<p>委員</p>	<p>民間が頑張れるステージが欲しいです。</p>
<p>会長</p>	<p>だから、新しい産業とか新しいものを興すっていうのは、役所は無理だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>いや、無理ですけど、ベンチャーを生む工夫とか、そういう施策をとる。それがなければ、だんだん、都心に近いところに人は行くのではないかと思います。やはり、産業。要するに、ベンチャーを興すとか、産業を呼んでくるとか、あるいは、若い夫婦だとしたら、今であれば、都心に近いほうから、土地を買おうということで勤める。でも、これからICT時代になると、そうではないかもしれない。 例えば、青梅は都心から60分かかるとは、子育てがすごくしやすい。そういう施策が本当にあったとすれば、本当に共働きでも青梅に住むかもわからない。在宅勤務もできる時代になる。青梅がそういう施策をやる必要が、最後は個人、民間ですけれども、この10年、じり貧が下手すると、どか貧になってくる時代になるだろうと、私は思います、このままで行くと。</p>
<p>会長</p>	<p>青梅？国の話？</p>
<p>委員</p>	<p>青梅です。青梅の固定資産税や市民税を言っているのであって、国はみんな悪くなります。そういうどか貧にならないためには、青梅だけはどうにか生き残るには、やはり産業とか人が住むということは、何か長期計画に入れておく必要があるだろうと。それを言いたかったのです。だけど、在宅勤務をやって、青梅が住みやすい、あるいは青梅は緑がある、子どもを育てやすい、自然もある。そういう施策を出したことによって住むかもわからない。あるいは、イノベーターが会社を青梅で興すかもわからない。そういうことをやっておく必要あると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>もちろんそういうことは重要だと思いますが、まず1つは、長期計画の会議を設立して、役所とか市議員ではなくて、民間、青梅に住んでいる人が中心になって議論して、議論できる場所が、十分時間があるかどうかは別にして、自由に発言する場所になれるというのはいい。しかし、それをどう反映させるかという、異例のことだけど、各委員の今後の10年のビジョンみたいなのを書いてもいいと思います。本編とは別に。 どうしても、市がつくるものだから、市の各部局にも目配りしないといけないし、それより前に市内の地区にも目配りしないといけないし、総花的にならざるを得ない。どこかの部分だけ強調して書</p>

	<p>いて、ほとんどほかは書かないということはなかなかできない。だから、どうしても特色のある戦略的な施策というのは打ち出しにくい。</p> <p>そしたら、1つのアイデアですけど、私はこういうことが重要だと書いて、それを付録につけてもらうやり方もあると思っただけです。それを市が採用するかどうかは別ですけど。</p>
委員	<p>もう第4回まで審議会が来ているわけですけども、それで今ごろ言うのは大変恥ずかしいですけど、この長期計画の審議会の第1回のときに、自己紹介したことがあったと思います。そのときに、我々が住む青梅がすばらしいまちになる、そういう計画を立てる審議会の委員に選んでくれてありがとうございますと言ったのを覚えているわけです。10年先に、今よりも青梅が、ここに基本理念にあるようなまちに、さらに向かっていくような、明るい将来像をこの長期計画は、立てるものではないのですかと、僕は聞いたと思います。私は、この4回までは、金がないのにこんなことできるかということがいっぱいありますけども。それからもう1つは、私が言っているのは、ハードの面だけではございません。ハードも含めてすべてです。これからも青梅に住んでいきたい、青梅に住んでよかったという方向の、計画を立てる会議ではないのでしょうか。</p>
会長	<p>もちろんそうだと思います。この報告書を読んで、正しいことが書いてあるかもしれないけど、これを読むと何か暗い気持ちになって元気が出ないでは困ると思います。だから、何か頑張れそうだというのを書くべきですけど、それにしても、今現在、10年先は難しいかもしれない。5年先ぐらいのことを考えて、あまり楽観的なことを書くわけにもいかない。</p> <p>僕も、今前半に言った意見と同じです。ともかく元気になるようなことを書かないといけない。ただ、そんな付録をつけたらと言っているのは何かというと、何かこういう会議は、えてして、いろいろな意見を聞いて、きれいな報告書ができてよかったということになることが多いので。報告書をつくるのが目的ではないから。この報告書をたたき台に、みんなが元気を出してやりましょうと、ある程度方向が出るようなのがいいので。報告書がきれいだから終わりですというのではしょうがないと思うので。その報告書がまた議論するネタになってみんなで頑張れば、本当はいいと思います。</p>
委員	<p>私もそう思います。</p> <p>こういう時代だけ頑張ろう。この計画書を見て、これから厳しいけど、青梅はほかのところと違って、これから10年後はみんなこうなるかわからないけど、おれたちは、こういう方向にということですけど。</p>
委員	<p>若い方を青梅にというところで、2つあります。30年前に青梅に来たときに、小さい子供を連れておばあさんと話されたときに、青梅に住んで大変ねって言われました。なぜ大変かというと、学力がとて低いよって。</p> <p>孫が地元において、御自分は杉並に住まっていたそうです。学力がとて低く大変だよと。ちょうど息子が3歳のときでした。私、小</p>

	<p>学校の教員をしていましたので、本当にそうなのかなと思って、子供たちの様子を見ていたけど、青梅市内の学校の先生たちは、本当に丁寧に子供たちに学習を指導してくださり、本当にいい環境の中で子供たちは育ったと思っているのに、なぜ外から見ると、学力が低いと言われないといけないかと、心の中で思いました。やはり都心から考えると、自分たちの子供たちが高校を選ぶときに、青梅で、例えば通知表5をいただいても、中央線に出ると、その評価が3になるとか現実を聞きますと、何だろうと。魅力あって、若い人たちがこの土地に来るならば、学力の点もきちんと保障できるような環境でありたいと思います。</p> <p>それからもう1つ。このまちで子育てできてよかったというまちづくりをミッションに、子育て支援の活動をしていますけれど、それぞれの各部署で、子育てできてよかったという環境づくりが整っているPRが外部にできていない。それと、外に行きますと、子供に関する施設が青梅はないと言われると、若いお母さんが来るかどうか。そこのも疑問です。あと、民生委員をしてわかるのは、母子家庭が非常に多く青梅に入っています。それは、母子家庭を手厚く、面倒見のいい青梅市で、いろいろな母子家庭ネットワークができていまして、ここの家賃が安くて、青梅市はよく面倒を見てお世話してくれるからということで、私が訪ねた8軒のアパートで6軒が母子家庭で、それで、母子家庭同士が助け合いながら暮らしているアパートもあります。青梅市の社会福祉が、母子家庭にほかの市よりも手厚いという。だから来るのかなというところもあります。</p> <p>だから、若い人を呼ぶためには、子育てできる安心な環境や学力も保障できる、何か青梅市に突出したものがあれば、通勤圏の青梅に来た当時、都心に出るのに2時間ぐらいかかっていたから、それから考えると、今1時間です。やはり環境はすばらしいです。自然環境はすばらしいし、人情味もありますし、まだまだおじいちゃんやおばあちゃんとのコミュニケーションもとれますので、そういうところへ、ぜひおうちを建てたいと。まだ都心に比べると地価も安い。都市のところで工場地帯に空き工場地帯があるのであれば、若い方々に住んでいただけるような宅地化を考えてみるとか、そんな方向性を見出すというのも必要ではないかと思えます。以上です。</p> <p>御自身の生活の今までの体験に基づいて言われていたのでよくわかりましたが、前に言われたのを思い出しましたが、異世代交流できるような場所をつくるべきだと言われていましたよね、子供だけじゃなくて。</p>
会長	
委員	はい。
会長	質問ですけど、本当に、いわゆる中央線沿線で青梅まで来ると、そんなに学力に差がある。今でも。
委員	高校入試のとき、みなさん、困っていらっしやいます。
会長	そうなの。それは内申書だから。

委員	<p>内申書だからです。今の学力で、私の知っているお母さんたちの情報では、本当に上位校に行ける子はきちんと塾に行けている、学習もできている。本当に行く高校が、なかなか見つからない子は塾も行けないし、不登校であったりする。いろいろな環境があるので、本当に学校選びに苦労されています。都立高校は、今、授業料が無償ですので、親たちはすごく喜んではいますけれども。そのところでの進路指導は、先生たちも多分苦労されているのではないかと思います。子供たちはのんびりした、とてもいい子がたくさんいて、都心のぎすぎすした、学力だけで人間を評価するような感じの子供たちはあまりいない。人間の心の育ちとしてはいいと思いますが、いざ入試になると、とても親たちは心配をしている現実があります。</p>
委員	<p>学校では、今、耐震の問題とか冷房の問題で、かなりこれから支出を増やさないといけない部分があって、しかも学校を運営するに当たって、最低限必要な部分は確保しなければならないという中で、やはり青梅の子供たちが、青梅にいてよかったとか、あるいは、青梅で学んだことを社会に出たときにも生かせるような施策は、いわゆる不易と流行という中での基本ベースのところをきちっと押さえながら、今何が必要なのかというところだと思います。前回、1つ申し上げましたが、ただベースの部分だけを固めていくような教育だけは、なかなか特色のある、あるいは、青梅の子が外に出たときに、それを武器にというか、それを自分の力にして活躍するような場がなかなか生まれてこないのではないかと思います。</p> <p>学力の話ですが、私は、都合8年間、青梅の学校を回らせていただいて、直接かかわってきました。その前後も合わせて、都内のほとんどの地区の学校を現在も回っていますけれども、学力の問題について言うと、確かに競争意欲というか、自分を人と切磋琢磨しながら生き延びていこうという意欲に関しては、正直言って、やはり穏やか過ぎるだけに、物足りないという感じはします。ただ言えることは、先生方の指導は、かなり良質の指導をされており、どこに行っても恥ずかしくなく言えると思います。特に小学校の先生方の指導を見ていると、本当に丁寧に行っています。教科書をきちっと教えるし、また地域の教材も取り上げるし、そして、教えるべきことを、身につけていない子についてはまた指導していこうっていう先生方の熱意も感じられるような部分があって、指導者としての教師の力量や意欲について、私は高く評価しています。</p> <p>ただ、それがこの環境の中で、外と競争する、あるいは、全都と一緒にあって高校を選んでいくときに、要するに、受験のための学力として考えたときに、果たしてそれが十分かという、やはり心もとないところがあって。ただ、その発想をすると、今度は逆に、学校の授業はそういうものなのかという話になってきます。要するに、受験の学力がつけば、学校の評価は高くなるのかというところが、また別の議論にもなってくる部分があります。私は、青梅の教育は、地域に生きている子供たちが身につけるべき学力をきちっとつけていくことと、社会に出たときに、本当に自分の個性、能力の中で伸ばせるものなのかということをしちっと指導していくような、そういう教育でないといけないのではないかと思います。だから</p>

	<p>ら、これからの課題はそういうところを青梅も取り上げてしまうと、もうちょっと競争的な原理に基づいた学力をつけなさいという話になるわけですけど。</p> <p>長くなって申しわけありませんが、柱の基本方針の中で、今回、子どもという視点で1つの柱を立てようとしていることについては賛成です。やはり、これからの流れとして、幼児教育、家庭教育、学校教育、あるいは生涯学習、そういう子どもの1つの成長過程を追いながら、どう教育がかかわっていくかという視点で見ていく、そういう柱は非常に大事で、そこが教育であったり福祉的な支援であったりということはあるにしても、やはり子どもという柱の中で考えていくということでは賛成です。ですから、窓口を1つにしながら子どもについて、できる施策を打っていく必要があるのではないかと思いますので、まだ内容的なものをもう少し精査する必要はあると思います。</p> <p>例えばこの施策分野の中に生涯学習という言葉が入っていない。そういうことなども考えたときに、これをどこに組み込んでいくかというあたりは考えていく必要があると思います。</p>
会長	<p>大分意見が出たので、事務局から、今日欠席の委員さんから書面で御意見、御提言をいただいておりますので、御紹介させていただきます。</p>
事務局	<p>大きく5点ございます。主に社会福祉の立場から述べさせていただきます。まず1点目が青梅市の高齢化率が高いこと。施設数が多いこともあり、高齢者に関する議論は多くなされてきました。買い物が難しくなっている高齢者など、要介護の手前の高齢者に対して、買い物や介護予防の必要性は自営業をされている委員の方からも多くの意見が指摘されてきました。</p> <p>2点目。青梅市では特別養護老人ホームや老人病院が幾つかあります。その多くがややアクセスの悪い場所にあることもあり、施設に入所するとなかなか他の人と交流することができない現状です。そのため市民の方と交流することも求められていくと思います。</p> <p>3点目。これまでの会議では比較的若い障害者の方については余り議論されてこなかったように思います。このことは、生活、参加、共同も含めハンディのある人もない人もともに暮らしやすい環境が整備される必要があると考えます。</p> <p>4点目。参加、協働という視点を明確にしたことで市民同士のつながりをつくっていくためのステップになるのではないのでしょうか。青梅市は人のつながりが残っているので、それを行政の支援を得てさらに強めていくシステムづくりが期待できます。</p> <p>最後に5点目。全体を通してはまちづくりの基本方向の柱立てがこれまでの5つから10になったことで、方向性や課題がわかりやすくなりました。震災後の安心、安全な暮らし、物質的、精神的に保障という具体的な基本理念を打ち出したことで、今後10年間の厳しい経済情勢の中でいかに市民の生活を保障するかという方向性が出ていると考えます。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>わざわざ書面でいただきましたので紹介していただきました。</p>

<p>委員</p>	<p>まだ時間がございますので、どうぞ。</p> <p>先ほどの子どもの教育ということですが、母親の立場として私はあえて学校歴主義を取らないで子どもを育ててきました。この世代までは学校歴がその人の幸福度というか、収入というか、それとリンクした時代だと思います。ところが、私の時代ですとそれが幸せにつながっていたかということ、そうではない時代です。つまりそれを考えたときに、私は青梅の子どもたちには学校歴ではなくて、生きる力みたいなものを身につけてほしいと思います。</p> <p>それは単純に言うと、読み書きそろばんです。少なくとも利息の計算が、今テレビでやっているサラ金の利息と自分が預ける利息がどのくらい違うのか瞬時に計算ができるということと、このお正月に小学校6年生の男の子が私に向かって「ポッパルトから贈られた懐中電灯を見たことがある」と言うから「ないよ」と言いました。「11,000個の懐中電灯ってどんなんだろうね。青梅の人が10人に1個ずつもらえる懐中電灯ってどんなんだろうね」という話からです。私はその話を聞いたときに、この子はもう人生を誤って歩くことはないと思いました。入ってきた情報をきちんと分析して、それがどういうものであるかを分析できる力があるこの子は、多分人生を間違えて歩かないで幸せな人生を過ごせると思いました。青梅の子どもに持ってほしいのはそういう力です。</p> <p>先ほどから国の力、青梅市の力ではどうにもならないというお話が何度も出てきましたが、その日本を動かしているのはたった一人の人間の集まりであって、やはりそういう基本的な力を一人ひとりがつけていかないと、日本の国はよくならないし、当然、青梅市もよくなれない。だから一人はみんなのために、みんなは一人のためにと、そういうものをすべての基本の中に置いて欲しいと思います。</p> <p>子供にとって必要なのは学力ではなく、生きる力です。前回の長期計画のときに食育のことが出ていて、いろいろ難しいことが書いてありましたが、子どもの生きる力は、小学校1年生になったら自分で親がいなくても御飯を炊いて卵をかけて食べられるのが生きる力だと思います。これは商業者もそう、農家もそう、なんでもそう。要は自分が生きていくために何をしたらいいのか、正しい情報をきちんとキャッチしてどうやって生きていったらいいのか。それを青梅市が大きなところからこういう方向でいかがですかというのを出すのが、この長期計画なのではないですか。</p> <p>話が抽象的で、本当はもっと細かく説明したいですが、生きる力、だれでもが生きていく力を大きく与えてくれるのが長期計画だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そういう気もするけど、ちょっと違うという気もする。つまり、そういう生きる力がなくてもどっかの分野ではすごくできる人間もいるわけだから、そういう人間が出てくることも僕は非常に重要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>2年ほど協働について委員会に出させていただきました。それで去年、協働マニュアルが青梅市から出ました。</p> <p>まちを活性化するためには行政も元気でないといけないし、市民</p>

委員	<p>活動も元気でないといけないと思います。そこを結びつけるのが協働で、市民はこういうことをやりたいという夢や思いがあって、まちの活性化にもこんなことをしたいという望みがあって、具体的にそれは生活の中から出てきたことなので、こうなればいいというのが意外と具体化しています。それでも人出が足りない、システムが足りない、少し資金が足りないというところで、市民活動推進課がありますけども、そこへ行ってどの課と協働をしていただくと、市民の中の活動を活性化させることができるかという、つなぎ目になっています。また、行政の各部署に今、協働を進める人が配属されたということを知りました。</p> <p>皆さん余り知らないと思いますので、そういうことも発信していきながら市民活動で一生懸命頑張っているところと行政と一緒に立ち位置が同じで話を進めて、各地域の産業なり文化なりを向上させていけるようなシステムはできていますので、市民に広く知らしめて活用していけば、各地域でそれぞれが盛り上がっていけば、あそこの地域は協働でこんなことができたよ、それでは僕たちもやってみようと市民活動の広がりが増えてくると環境産業も、それから文化産業もいろんなところから市民の力が得られるのではないかと思います。</p> <p>一番最初に議論になった、この6次が本当に5次の延長でいいのかどうかは、私も今この時代にこれでいいのかとは思いますがけれども、そういう方針で行こうというのがもともとのスタートのようで、この資料2の真ん中にも基本理念は第5次から踏襲しつつ、新しい潮流とか、大震災の問題を踏まえて具体的などころを少し見直したいということですので、そこからスタートする。その後新たに付け加えられた第5次と第6次を比較して基本理念、基本姿勢第2章第1のまちづくりの基本姿勢を、基本理念という形でこの3つに柱を立て直して、この表現でこの項目でいいのかどうか。例えば物質的・精神的に保障されるまちという言い方は違和感がないのかどうかということなんです。それから11の5つの視点が今回改めて箇条書きで出てきていますが、この5つが本当にいいかどうか。</p> <p>個人的にはこの4番、例えば地域資源というのは、表現のレベルがほかと少し違うので、地域資源と書くのであれば地域資源の活用とか何かに直す必要がある。絆というのは今、流行語ではありますが、少し安直では。今後10年、20年の先々を考えて本当にここに書いていいのかどうか。</p> <p>それから次に、第5、5項に書いてあるのを今回10項にして確かにわかりやすくなりましたが、これは基本方向ではなくて、基本の、とりあえず今は分野とか領域を10項に立てたということだと思います。基本方向でこの10項に特化してやるということまでいっているのかどうか。</p> <p>子どもが独立しているのは、それはそれでいいと思いますが、向こう10年間、地域の本当の担い手の人たちである、中堅世代とかシニア世代とか、さらに取り込んでいきたい働く世代とか若い世代の人に対して、この10項の項目でどこにも入っていない。高齢者は福祉の所にしか入っていない。福祉の対象ではない高齢者がたくさんいて、そのシニアの人とか中堅の人たちにいかに暮らしやすいか、頑張っただけの地域を目指すかということが、むしろ今後の課</p>
----	--

会長	<p>題なのではないか。今回変えた部分でこの枠組みがいいのかどうかをもう一度確認した方がいいのではないかと。</p> <p>あとは、例えば時代潮流と大震災が残した教訓で9つ挙げている中で、それぞれ挙げているのであれば、あるいは市のいいところを挙げているのであれば、課題に関してはその課題を克服する方向、それからいい特性であればそこを伸ばす方向が、今の基本方向のここに書き込まれた方がわかりやすいと思います。</p> <p>あと、まちづくりの課題と市民の期待の8つがうまく流れていないです。前の5次の場合には、上の時代潮流の5つが、今度基本方向の5つに連動していますが、例えば時代潮流の情報通信の技術の発展・普及とか、アジアへの対応とかというところがあまり書き込まれていなかったりします。</p> <p>それから、市の特性は、私も観光にかかわっていた時代が長かったので、数字を見るとびっくりしました。市の特性の所には豊富な観光資源を生かした観光産業と書いてありますし、地域資源の所にも多様な地域資源を生かして観光の拡充を図ると言っていますが、従来考えていたような観光資源のとらえ方では多分だめかもしれないということを先ほどの資料があらわしていて、今日、テレビで木更津の新しい施設の話をしていましたが、ダイナミックさとか、外に目を向けた考え方とかを見ると、観光に関しても豊富な観光資源を生かした観光産業が特性ですという従来の考え方では、これからの時代は乗り切っていけないと思いました。</p> <p>それから、まちづくりの基本方向の1番が生活で、私は生活という言葉を見ると、何か暮らしやすさとか、それこそ買い物の問題とか、地域の助け合いの問題が出てくるのかと思うと、中を見ると基本的には震災対応が非常に大きな内容を占めていたので、この10項でこういう表現でいいのかと、その個々の内容がこれでいいのか確認をした方がいいと思います。</p> <p>4番の文化というのもレジャー、レクリエーションの話で、これも私は長くかかわってきた話ですが、文化という言葉から出てくる内容が本当にこの内容なのか。もう少し地域の生活文化みたいな話が書き込まれた方がいいのかとか、健康では、みんなが元気で健康なまちを目指してとなりますが、この目指すことは確かに必要ですが、みんなが永遠に元気で健康ということはあり得ないので、確認をした方がいいと思います。</p> <p>それから雇用の観光のところも7番(2)で自然や歴史文化などが豊かな地域資源を生かし多様化した観光ニーズにこたえる、と。これも、これからの観光ニーズにこたえ、観光都市としても生きていこうとするのであれば、また違った見方も必要だと、そういう細かいところも気になります。その前にこの枠組みでこの10項で決めたことの確認をさせていただきたいです。</p> <p>かなり具体的な指摘をしていただいて、長期計画をまとめるときにもう一回考え直さなければいけないところの指摘だったと思います。</p> <p>11番の絆は、少し安直すぎるとか、12番は10本柱になっていますけど、書いてある1の生活、2の環境から、10まで書いてあることと内容がずれているところがかなりあるのではないかと、文化と書いてあるけど生活文化が出ていない。</p>
----	--

委員

それから子どもという項目を立てたのは、皆さん割と評価していますが、この10年を考えるとそれを支えるのはやはり中年の一番働き盛りの人とか、何も触れてないのはまずいのではないかと、いろいろありました。これはそんなに簡単にうまくはまとまらないですが。

今日の話の中で恐らく欠落していると思うのは、目標のようなものがないのではという気がします。言いかえれば、これから先10年どうしていくのかという、ある種の市民に対する宣言のようなものが必要なのではないかとという気がします。

例えば、先ほど役所は新しい産業をつくれぬという話がありましたが、僕はそう思ってなくて、逆に今までの日本の役所のあり方からすればそれが普通だろうということは概念的にあると思いますけど、これから先の10年を考えたときには、今までどおりのことをやっていたら、恐らく青梅市は間違いなく先細りだろうと思います。税収その他、社会情勢を考えても先細りすると思いますので、その中で青梅が強くなっていくためには新しい産業をつくっていく必要があります、必ず出てくる。そのときに役所の方でできないと言って、それで話を終わらせられたのでは困ると思います。僕の方から問いかけさせていただきますが、役所の方々はそれをやる気ないのかと。でも、僕はここにお集まりの方々はやる気があると思っています。

例えば、新しい産業をつくっていこうという意欲を持った企業や団体があって、いろんな企画が出てきたときに、役所の方でそれを応援しよう意識を持っていただければ、これは大きく構造が変わっていくことだろうと思います。そういうことも含めてこの総合長期計画の中に、ある種市民に対する宣言をこの1番の基本理念のあたりなのか、そのさらに上なのか下なのか、ちょっと位置的にはわかりませんが、3つから5つ、多くても10個ぐらいのある種の宣言のようなもの、目標のようなものが設定されてもいいと思います。さっきおっしゃった別冊でつけるというのに少し感覚的には近いかもしれませんけど。

例えば、前回の会議で子供を3人産んで育てられるまちというフレーズがありましたが、ある種の具体的な数値が入っていて、10年後には青梅市は子供3人を育てられるまちにしようよというような宣言。あるいは、今日の冒頭でおっしゃられたように、新しい産業をもっと考えなければいけないので、100億円規模の売り上げを上げる産業を10年後には50つつくろうというような宣言。そういう目標、その具体的な数字をどこまで入れられるかはいろいろ考えていかなければいけないと思いますけど、もしかすると現段階では足りないと感じられるような気がいたします。

役所の方々、あるいは議会、その他を含めまして、そういう目標を立てて、それも夢のある目標であり、知恵を使ったりすれば、あるいは、ある種みんなが走り回ったりすればできるのではないかとというような目標を立てていく。

僕は子どもを3人育てられるまちというのは10年かければできると思います。これから何年か苦しいと思いますけど、税収も落ち込むでしょうし、いろんなことで、震災関係で今までから考えたら余計な支出が出たりするでしょうけど、10年後にそれを達成しようと

	<p>いうことであればできるのではないかと。</p> <p>ほかのまちと違って青梅が市を挙げて、具体的に言えば市役所側がそれを先導するぐらいの勢いで、そこに向かって走っていくような形になってもいい時代ではないかと思うので、これは違うぞと言われるかもしれないですけど、ここの審議会での長期計画の一番頭の方に並べる、10年後こういうまちを目指しますという宣言のようなものを入れてはどうかということを一応、提案しておきたいと思います。もしできれば僕の場合は、そこには情報の流通を活性化させるということを入れていただきたいし、あと、さまざまな新しい企画、これは産業にかかわる部分が多いと思いますけど、企画が出てきたものを応援するまちという宣言が入って欲しいという希望を持っています。</p> <p>一応提案ですが、そういう宣言とか目標のような、大目標のようなものを幾つか立てて、市民にもこれから青梅市は10年後にこうしようと言っているらしい、というのが3つか5つか、多くても10個ぐらいあったら非常にわかりやすいのではないかという気がしています。</p>
<p>会長</p>	<p>それは賛成です。例えば子供3人を育てられると宣言したら、それを可能にするためにはAという施策とBという施策をしなければいけなくてというのは、もうグループになってパッケージで出てきますから。</p>
<p>委員</p>	<p>今は子どもを1人しか産めない時代だと思いますけど、3人にするためにはどうするか。家庭の収入は変わらない。でも、変わらない収入の中で3人育てるために市側が提供できるものはいっぱいあると思います。</p> <p>では、それを実現するためにどうするというのが、一番最後の個別計画の中に入っているというのが、多分この計画のつくり方の順序ではないかという気はします。</p>
<p>会長</p>	<p>多分、積極的な提案を、市の方が受けるのは嫌がってはいないと思います。ただ、最後どこにどうおさめるかは苦勞すると思いますけど。だから確か次は2月22日で約1カ月後ぐらいなので、具体性の程度はあると思いますが、一人1つか2つぐらい、10年後に達成したい目標を考えてください。</p>
<p>委員</p>	<p>10年後こんなまちであってほしいと。僕は前に言いましたけど、外の方々だったらこうなっていたら青梅に来るぞというのを言っていた方がいいと思います。今までの10年前、20年前の考えだったら、そんな荒唐無稽なことをできるわけないだろうと言われたものでも、これから10年はそれをしなければいけない時代のような気がするので、それを何とかするために多分我々は知恵を使わなければいけないのだろうという気がしています。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さんに宿題みたいになってしまうけど一人1つずつぐらい考えていただいて、それをどう組み合わせるか、最後にどう整理されるか、それをどう書かれるかわかりませんが、非常にいいことだと思うのでぜひやっていただきたいと思います。</p>

委員

現実を見ると、先ほど市の財政のお話もありましたけど、今はまちでは確か借金を650億円抱えて、実際この公債を毎年支払いが20億ぐらいです。それでここ3、4年を見ると借りている方が40億、50億を借りているから、結局公債のトータルは累積が上がっていくわけです。将来的に見れば財政もさらに厳しくなるところで今のような状況が続けていく限り、もうまちとして成り立たないだろうと。それでこちらの資料の中に一般会計の歳入額の推移とありますけど、これを見てもわかるように、これは歳入ですけど歳出も当然これにならってやっています。

さて、そこで何をしたいと。今、おっしゃったような内容でああしてこういうような目的を持つべきだということに必ずかかってくるのは、お金です。

そのお金をどうやって捻出したらいいのか具体的なものも検討すべきではないかと思えます。

例えば青梅市では議会の中を見ても28人から24人になっています。4人というのは、年額の金額にすれば多分4,000万、5,000万の経費が削減されています。でも、それでも24人でちゃんとやっている。

同様なことが採算部門の方に、特に私が目を向けたのは削減の方法として競艇の問題があります。健全な収益事業と言いますが、ここ10年間ぐらい決して健全ではなくなってきたと、返って重荷になっているのではないかと。そのようなところなどをバツサリ切るようなことも僕は検討すべきではないかと思えます。そうでもしないと、ますます負担が増えて、もう絵に描いたもちになる可能性も多々あると思っています。

あと1つは、まちと市民との間の協働というお話をしていましたけど、まちとして例えば青梅線1つ取っても、青梅線で新宿まで行くのに一番早い電車に乗れば1時間2、3分でいきます。その昔、確かに1時間半ぐらいかかっていたのが、ここまで短くなってきたというのは、それはJRの努力によるところですけど、やはり新宿まで行くのに1時間を割るようなことになると、仮に働きに行った方々が帰って来ても、1時間で帰れるというようなことになれば、青梅を住まいとして永住して通勤は都心まで出ていこうという人がいれば、担税能力のある方、税金を払う方々が、より集まるのではないだろうか。

ぜひ若い方々に働いてもらうためには、そういう都心に出ていく人がたくさんいますし、その人たちが、より短時間で帰れるような仕組みは、青梅市とJRが話し合っ、具体的には青梅特快というのがありますが、特快というのは立川まで各駅停車で行って、それから何駅かを停まらず無停車で行って時間を短縮していますが、青梅特快は青梅線に入ってくると各駅、例えば立川から青梅まで12駅あると思えますけど、みんな停まってしまいます。ここを中央線で採用されている方法を使うことによって10分ぐらい時間が短縮できると思えます。青梅ライナーというのがありますが、青梅ライナーというのは都心に行くのに青梅駅や河辺駅まで来ると10分短縮できる。新宿まで仮に今1時間のところが10分短縮で50分となる。本当に通勤することに、そう苦勞ではなくなってくるというようなことを、青梅市とJRがもう少し通勤する方々のためにやってくれ

<p>会長</p>	<p>たら、青梅に住みたいという方々も増やすことになるのではないだろうかというのを考えます。</p> <p>お金との問題があるので、なかなか目的を具体的に10年後には達成、これをやったら、あれをやったらというのは言えないところがあると思いますが、この長期計画の中では一切お金のことを無視してまずやりましょうというのだったら、何かの提案はできると思います。</p> <p>では先ほど言った目標設定の提案で、無駄な採算を切るというのと、2番目の意見には賛成です。青梅線に入って全部各停とはちょっと何か青梅線快速みたいなのがあっただけかと思えますが、その辺も提案していただければと思います。別にそういう提案でも構わないと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>大分時間が過ぎましたが、せっかくのいい機会ですから、まだ一言二言、言いたい方がおられましたら。</p>
<p>委員</p>	<p>今日来る前に午前中羽村市に寄って羽村市の生涯学習センターを見てきました。これは市政懇談会で市民の方から発言があって、市民センターをどうするかとか市民会館をどうするかという話の中で、演奏がみんな向こうへ行って青梅に来なくなったという話の中で出て来たので、どんな所かと見てきましたけども、なかなか羽村市の人口の中であれだけの施設をよくつくったと感心して見てきました。実際今日2時からやっている演題、講演があって、それからちょっとしたコンサートをやるらしいですけども、それを講演している方々を青梅市の方々が実際支援していました。</p> <p>私はこれを言いましたのは、実は青梅に同じものをもっとつくるべきではないかという意味で言ったのではなくて、たまたま、青梅線の話が出ましたが、青梅線の沿線では羽村、それから福生、ほかの市が立川との間にあります。そうすると青梅線で快速で途中を飛ばすという場合には、どちらかが犠牲になるかもしれないということがありますから、当然それぞれの市との協調とか連携がないとできないと思います。それから青梅線の場合は奥多摩町につながっていますから、今は西多摩の行政圏というのがありますので、必ずしもそれが実際いろんな事業の中で具体的に協力、連携するというものは、私自身見た限りでは見えないです、計画はありますけども、もう少しいろんな分野で、ICTの活用も含めて何か連携がこれからの10年の中では必要なのではないか。青梅だけがよければいいというのではなくて、やはりこの地域全体がもう少し全体がよくなっていかないと青梅だけひとり勝ちという事態は多分ないだろうと。やっぱり市民間の連携もそうですし、行政レベルでの連携も多分必要になってくるのでは。そういうことも何かこの計画の中に視点として入れてほしいというのが私の希望としてはございます。</p>
<p>委員</p>	<p>子どものことに関してですが、行政は財源がないということは重々承知です。つい先日、市役所の斜め前に子育て広場というのをNPOで新しく青梅こども未来館を開設しました。そこで結婚したばかりの若い夫婦から妊娠しているプレママたち、本当に夫婦の単</p>

	<p>位のところから子育てを考えてこのまちづくりをしようということで、このまちで子育てできてよかったというまちづくりの拠点として、NPOという市民活動が頑張っております。その活動に対して子ども家庭支援課も、とても協力的に協働の形でかかわってくださいます。本当に感謝申し上げますが、やはり資金のところではもう一つ市長や副市長の方に御尽力いただけたらというところはあります。市民活動の中で一生懸命このまちをよくしようという活動を開いておりますので、そのところでやる気のある行政と協働ができれば、それぞれの拠点、駅前にはなりますが、そこから活性化が進むのではないと思っておりますので、行政マンの方もいっぱい協力をしていただいてこのまちをよくしようという意気込みというのは、とてもよく感じますので、まちの活性化に市民と行政が力を合わせて取り組めたらというのは、やはりこの中にも協働の所に入っていますけど、もう少し具体的に決めていただけるといいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>もう大幅に超過したので、今日はこのぐらいにしたいと思いますが、今日の意見をもとに重要なところだけ、ちょっと漏れがあるかもしれませんがおさらいをすると、提案に大体賛成のようですが、10年後というのを考えて何か目標を立てたらいいのではないかと思いますので、皆さんに出してもらって、それを事務的にはみんな整理して、次回までに出してもらって次回で紹介できるのか、次回である程度配布できるのか考えて締め切りを設定してもらって、今日欠席されている方にも。</p>
<p>委員</p>	<p>それに際しては、もしできれば、そちらにお座りの職員の方々にも、一つずつぐらい何か出してもらっても。いつもずっと何もおっしゃられないのではつまらないでしょうし、と思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、わかりました。 それから冒頭に言われた時代潮流をどう読んで、どういうふうにか考えるかというのは、この6次の計画骨子の6の時代潮流の所にちゃんと書いて、市としてはこんなことができるのではないかなというのをおあわせて書ける部分は書いてもらって、先ほど出してもらった目標設定と連動してどのぐらい書けるかです。 それから11、12章、まちづくりの視点とまちづくりの基本方向について、項目自身の言葉が少し不適切なものもあるし、項目と内容が合っていないものもあるので、もう一回整理した方がいいのではないかなということでしたね。 これは最後でやればいいと思いますが、今後10年でやっていく具体的な施策みたいなのをこういう長期計画か、1章の1を決まりでつくるのにどのぐらい具体的に書き込めるかというのは、最後にどこにどう書くか考えなければいけないです。 ということで、ちょっと時間が超過しましたが、次回の話とその他があれば事務局の方から紹介していただいて。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは事務局から御報告させていただきます。会長からも先ほどお話がございましたとおり、次回第5回青梅市総合長期計画審議会につきましては、2月22日水曜日午前10時からの開催を予定させ</p>

会長	<p>ていただきたいと存じます。また第6回以降の開催につきましては決定次第、御連絡を申し上げたいと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ではこれで今日は終わりにしたいと思いますが、活発に議論していただいて非常によかったと思います。ただ宣言文をいろいろ書くのはいいけど、宣言なくして何もできないというのはやめましょう。それは避けたい。</p> <p>それではどうもありがとうございました。</p>
----	--